

# 令和4年度 第3回 高砂市総合政策審議会 全体会

## 議事録

開催日時	令和5年2月13日(月)14:00~16:00					
開催場所	高砂市役所 南庁舎5階 大会議室					
会長 副会長	山口 隆英 会長 田端 和彦 副会長					
委員 (名簿順) 出席26人	出席	中尾 進委員	出席	増田 賢藏委員	出席	松井 藍委員
	出席	松本 克英委員	出席	見上 恵美子委員	出席	塩崎 篤史委員
	出席	清水 美代子委員	出席	眞榮 和紘委員	出席	寺延 順市委員
	出席	西牟田 和子委員	—	濱中 美佐子委員	出席	春下 充代委員
	—	藤本 翼委員	出席	藤原 英修委員	出席	村松 眞由佳委員
	出席	山里 護委員	出席	田端 和彦副会長	出席	東野 アドリアナ委員
	出席	山口 隆英会長	—	稲垣 稔委員	出席	大西 正起委員
	出席	後藤 純次委員	出席	大森 裕委員	—	松下 尚平委員
	出席	江畑 達也委員	出席	破魔 淳司委員	出席	山口 光一委員
	出席	坂本 竜之介委員	出席	掛川 伸治委員	出席	小川 佳宏委員
議事	協議事項 (1) 第5次高砂市総合計画令和4年度実施計画について (2) その他					
資料	事前配付資料 会議次第 委員名簿 令和4年度第5次高砂市総合計画実施計画(行政経営プラン) 当日配布資料 高砂市の総合計画兼総合戦略を改定することについて					

## 議事の経過

### 開 会

- <本日の資料の確認>
- <本日の進行について説明>
- <出席者・事務局照会>
- <会議の成立>

### 高砂市長 挨拶

委員の皆様方にはお忙しいところご出席賜りまして誠にありがとうございます。先ほどから駐車場が大変混雑をしており、新庁舎が昨年12月24日にグランドオープンし、大変広い駐車場になっていますが、今日本庁の中でも会議が一つ入っており、確定申告などで、大変駐車場が混雑したことに、お詫びを申し上げます。今後の対応については市の方で考えていきたいと思っています。

さて、この高砂市総合政策審議会につきましては2年ごとに委員をお願いしており、今回が任期内での最終の会議となっています。新型コロナウイルス感染症や物価高騰など、この2年間の社会情勢の変化は目まぐるしく、私たちの暮らしや行動を大きく変容させて参りました。また、気候変動による自然災害の激甚化や、少子高齢化による地域の衰退など、コロナウイルスの出現前からあった多くの課題に直面している一方で、デジタル分野やグリーン分野など、新たな世界の潮流は、生活の豊かさをより向上させていくものと期待されています。

本市においては、「暮らしイキイキ未来ワクワク笑顔と思いやり育むまち高砂」をスローガンに、持続可能な住みたいまち高砂に向けて、取組を進めています。

特に、今年は世界的な潮流でもある、脱炭素に向けて、市民や事業者の皆様とともに考え、ともに行動し、ゼロカーボンシティ実現に向けた事業を推進して参りたいと考えています。

委員の皆様方におかれましては、長きにわたり、住みたいまち高砂のため、様々なご提案をいただきまして、誠にありがとうございます。改めて深く敬意と感謝を申し上げますとともに、私が就任して以来、目指しております持続可能なまちづくりのため、引き続き高砂市政に対して、ご支援を賜りますよう、お願いを申し上げ申し上げます。

それでは、本日ご審議をどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 会長 挨拶

本日が任期最後の会議ということで、よろしくお願ひいたします。長々と話しませんが、様々なことがあって、何とか乗り切った、この2年の任期だったかなと思いますので、最後に議論をして終わりにさせていただきたいと思います。本日はよろしくお願ひいたします。

## 協議事項 1 第5次高砂市総合計画令和4年度実施計画について

### (会長)

次第に沿って審議を進めさせていただきたいと思います。協議事項の1点目で、平成4年度第5次高砂市総合計画実施計画、行政経営プランについて事務局から説明をお願いします。

(事務局)

○資料に基づき説明

(会長)

今日は皆様にお一人3分程度でお話をいただくことになっています。よろしくお願ひします。

(委員)

2年にわたりありがとうございました。

先ほど市長がご挨拶の中で持続可能なまちづくりということをおっしゃいました。意見として1点、持続可能なまちづくりについて、難しいと感じるところをお話させていただきます。

市民病院については、市が経営するのではなく、一旦考え直す必要があると思います。なくす方向でとは言いませんが、大鉦を振るわない限りは赤字が減らないと思いますので、よろしくお願ひします。

(委員)

私は立場として高齢者ということで、老人クラブについてお話しします。老人クラブは会員制の団体ですが、地域差はあるものの、65歳以上の入会率が20%を割っています。総合計画の中に高齢者に関する問題が出てきますが、今一番問題になっているのは、老人会に入会する人数が減っており、公共交通など、移動手段の問題で難しいということです。高砂市のじょうとんバスも市民が思うようには動いていません。そのため、それをカバーするように色々取り組んでいますが、現状、高齢者が高齢者を車に乗せて動くことも老人クラブの一つの条件になっています。運転できる人が乗せて活動していますが、事故が起きると大事になるということが問題になってきています。

前回は公共交通に関する問題が多く出てきました。老人クラブは、元気な高齢者を育てることが一番の条件ですが、現時点では、移動を伴う行事への参加等が難しくなっているため、移動手段については、大きな問題として考えていく必要があると思います。

(委員)

結婚間近の姪がいる、高校・中学・小学生の子がいるという私の立場から、デジタル環境のことについてご意見させていただきます。

中学生のタブレットを使った授業について、昨年5月頃、修学旅行に向けて、学生たちでルート調べる機会を先生方が用意してくださいましたが、福岡の太宰府天満宮の公式サイトが閲覧制限で開くことができませんでした。また、Google Map のストリートビューでルート調べることを子どもたちは考えたのですが、それも見るできませんでした。コロナ禍の間に長崎では駅名が変わったところがあり、3年前の資料を先生方が用意してくださいましたが、どこの駅かわからないというような混乱も生じました。

この総合政策審議会の中でも、中学生のタブレットの閲覧制限を緩和してほしいというお話をさせていただきましたが、未だに緩和されていません。先生方が考えてくださった授業の幅が、タブレットの閲覧制限のため、とても狭くなってしまっている状況です。小学生の低学

年等であれば、そこまでの影響はないかと思いますが、中学生になると、自分たちのプレゼンのための調べもの等もあるため、早急に見直していただかなければ、高砂市の子どもたちの学習の幅がとても狭いものになってしまうのではないかと懸念します。

次に、若者世代について、結婚を目前に、どこに住むかを考えた際に、高砂市がもしこうだったらという要望を姪に聞いてきました。そこで1点、ホームページから婚姻届等、一連の必要になる書類が直接ダウンロードできればという意見がありました。市町村によっては、各種届書や様々な書類がダウンロードでき、プリントアウトして用意したうえで市役所に持っていくことができますが、高砂市はそこが他市と比べて遅れをとっているのではないかと思います。若い世代では働いている女性も多いため、そのように手間が省くことができれば、手続きもしやすいということで受け入れられるのではないかと思います。

(委員)

実施計画を読ませていただくと、とても良いことが書いてあるため、ぜひ実行していただきたいという結論です。

その中で、まちづくりについて、前回も都市創造部からご説明もいただきましたが、皆期待していますので、提言されたものや示されたもの、政策は市民も見ていますので、ぜひ実行していただきたく、お願いします。

もう一つ、先ほど公共交通のお話がありましたが、確かにこれについても高齢者は困っています。都市創造部だけでなく、横断的、総合的に、公共交通の観点と合わせて、福祉の観点からも、じょうとんバスに限らず、誰一人取り残さないように対応していただければと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、人口減少について私は非常に心配しています。そのための政策をお願いしたいと思います。その中で気になる点として、私は72歳になりますが、DXやデジタル化、SDGs等をやれば全て世の中が良くなると、何か流行語に踊らされている部分があるのではないかと思います。SDGsについても17のゴールがありますが、その中でも実行しようとするれば、相反するものもあると思います。住民はDXやデジタル化でどのように変わるのか、具体的なことを求めているため、抽象的な理念も必要かとは思いますが、それを繋ぎ、結果として住民にとって良いようにお願いしたいと思います。

(委員)

婦人会は毎月2回程度、子どもたちの下校時の見守り活動を何年も続けています。婦人会のスローガンとして、「地域が子どもを育てる」ということを重視しています。子どもたちが健やかに育ち、高砂の企業に就職し、高砂で結婚し、子どもができるという繰り返しができればいいなと考えています。

話は変わりますが、前回審議会の際に、高砂駅南のまちづくりについて要望を出させていただきましたが、迅速に、この2月6日に会議の場を設けていただき、現状の説明を聞かせていただき、ありがとうございました。

(委員)

私からは2点お話をさせていただきたいと思います。

まず1点目が、「子どもが学ぶ力を育むまち」の今後の対応として、ICT 機器や学習ソフトを有効に活用したアクティブラーニング実践とあります。これに関し、高砂青年会議所では、昨年、他団体との共創をテーマに、様々な団体とまちづくり活動をしていこうという取組をしました。その中で、岡山大学では産学共創の事業をしており、そこと共同して取り組む機会がありました。そこで寺澤教授という方がマイクロステップスタディというシステムを開発されており、これは、タブレットを利用した生徒個別の学習進度や学習意欲に応じて課題を出し、全体的に学力を向上させるというシステムで、全国的にも導入されている自治体が増えているというお話を聞きました。非常に魅力的なシステムだと感じましたので、ぜひ高砂市でも導入をご検討いただきたいと思います。

もう1点が、「災害から市民を守るまち」に関してです。私の本業は弁護士をしていますが、その中で、災害に関連して取り組むこともあります。他市や他の都道府県で大規模な災害地震や大雨が発生した際に、例えば、住宅が倒壊したり、流されてしまった後、どうすればいいのか、住宅ローンが残っており、今後の支払いはどうなるのか、加入していた保険が出るのかなど、法的な問題として、生活に直面した相談もあると聞いています。そのようなことがないのが一番良いのですが、万が一の場合に備えて、兵庫県弁護士会と防災協定を締結すれば、災害発生後、迅速な法律相談の対応等も可能になるため、そのような面で、持続可能なまちづくりの一助を担うこともできるかと思っています。防災というより、災害発生後の対策にはなりますが、そのような面でも弁護士を活用してもらえればと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

(委員)

私は長年、県の保健師をやったという立場、また、現在「つなぐ手と手」という市民活動をしている立場で、2点気づいたことをお話したいと思います。

まず、保健福祉の分野について、高砂市が決定的に他市に比べて遅れていると思います。例えば、手話言語条例が制定されたのが、県内で下から4番目くらいです。また、講演会等での要約筆記や手話について、近隣市では無償で配置していますが、高砂市では一切ありません。福祉グループ「つなぐ手と手」は今年度5回講座を行いました。その中で行政からの助成金は、県民局から5万円をいただいているだけです。ですが、費用としては要約筆記だけで10万円くらいかかります。実施計画でも市民活動する市民を育てると謳っていますが、私たちは毎年助成金や資金繰りに非常に苦労しています。現在の環境では市民の活動は育たないと思います。

もう1点は精神障がい者への対応についてです。国も県も精神科病院に長期入院している方への退院促進に非常に力を入れています。これは人権の問題でもありますが、高砂市には1年以上の長期入院の方が80人近くいます。しかし、実際にそれに対する手立てを考えていませんし、地域包括ケアの中でも全く進めようとされていません。私は昨年、加西市でお話させていただく機会がありましたが、約80人の方が参加され、市長だけでなく市議会議員も15人の内10人が参加されました。私は、この現状の違いが熱意の違いであると思います。また、縦割り行政から脱却できていないと思います。計画の中でも地域交流センターや高砂型学校運営協議会などの創設が次々と打ち出されていますが、これらが目指すものは、地域でのコミュニティづくりやまちづくりを人々の生活の中で実現させることです。しかし、それぞれがそ

それぞれの部署で一つの事業となってしまうため、それでは効果的な運用、活用はできないと思います。そして、それぞれを動かすために協議体を作っておられますが、自治会長や医師会、老人会等はそれらの協議体に含まれますが、その他の団体はほとんど入っていません。官民協働と言われますが、地域には様々な活動もあり、企業もあるため、それらの知恵をどう活用していくか、また、それらを汲み取ったうえでの政策が本当に大事だと思います。国や県の政策を市に反映させるだけでなく、地域を見据えた政策を今一度練り上げていただきたいと思います。

(委員)

私からは2点意見を申し上げたいと思います。

1点目は、医療福祉の観点からです。このコロナ禍で特に都心部や中山間部、島しょ部ではデジタルの推進が進み、遠隔医療などが十分進んできました。一方、それ以外の高砂市のような地域では難しい部分もあります。先ほどもご意見ありましたが、通院、通所しなければならない部分もまだ残っています。厚労省も大きく進めており、デジタルで変えるという言葉もありますが、若い世代もしくは、そうでない方でも看護師が訪問してデジタル診療をサポートするような事業もあるため、そのような事例も高砂市に取り入れることができればいいなと思っています。

2点目は関係人口の観点からです。高砂市にある様々な資源を活用しようと、この2年間も様々な議論があったかと思っています。ここで、高砂市には各産業を代表するような大きな企業、またそれらに関連する企業が多くあります。したがって、官民連携でそことの交流があっても良いのではないかと思います。高砂駅、荒井駅を利用する方はたくさんいらっしゃいますが、通通勤だけで通るといところがあるため、その方々にいかに高砂市に関与していただくかというところは、引き続き一緒に議論していきたいと思っています。

(委員)

私は、高砂市中心身障害者連絡会議の代表をさせていただいています。今日は全体会で約30人の委員の方がお集まりいただいています。今から私が述べる要望、希望について色々と考えていただけたらと思っています。

傍聴席が0人と、市議会の方が1人か2人は来られるかと思いましたが、残念ながら来られていません。市民の代表の市議会の方が来られていないのは寂しい限りです。

今回は、事務局に対して要望があります。事務連絡にもありましたが、委員は今回をもって一応終了となり、新たな委員の選定に入ることになるかと思いますが、前回、なぜ障がい者団体が団体枠に入っていないのかと質問しました。その時は、庁内で検討の結果、障がい者団体を団体枠に採用しなかったとのことでした。審議会も先般、若い方や女性の方を増やす方向にシフトしていると思います。明石市では、昨年1月に、ジェンダー平等検討委員会を立ち上げています。その中で、7月に協議を行い、そこでは、審議会にも障がい者等も当然参加させるべきであるとのことでした。障がい者は自ら発することが非常に難しい立場にあるため、今後は審議会の委員選定に関しては、団体枠に障がい者団体を付け加えてほしいと思います。「暮らしイキイキ未来ワクワク笑顔と思いやり育むまち高砂」を目指すのであれば、誰一人取り残さないためにも、ぜひ市長及び事務局の方に、次回委員選定の際に、団体枠に障がい

者団体を加えてほしいと思います。

(委員)

私は子育て世代としての意見をお話させていただきます。

高砂市は働くお母さんのための制度は整ってきていますが、それ以外の部分では少し弱いのかなと思っています。例えば、高砂市の子育て支援センターは就学前の子供に限定されているため、小学生以上の子どもがいると一緒に入れません。したがって、夏休みや土日に関係者全員では利用できません。小さい子供の安全面を考えると仕方のないことかと思いますが、近隣市では、児童館や地域の交流施設が増えており、乳幼児から小中学生等幅広い年齢の人が集える場が整ってきています。

素敵だと思ったのが西脇市のミライエという施設です。図書館や調理室、学習スペースや誰でも弾けるピアノが置いてあり、外には芝生のある公園や遊具もあります。赤ちゃんがハイハイする部屋もあり、小学生が友達や家族とボードゲームを楽しんだり、高校生が集まって学校の課題を話し合いながら楽しくやっているような様子も見られます。外の公園では、ご年配の方が散歩しながら全然知らない親子に話しかけ、四葉のクローバーを一緒に探しているというような、誰でも交流できる施設を見てきました。誰かと繋がれる、ほっと温かい気持ちになれるような集える場所が高砂市にも欲しいなと思いました。

新しい地域交流センターについてもその名前に違わず、交流の場としての意味合いも大事にしてください、ご縁や結びつきというところも大切にしてほしいと思います。

市民プールや青年の家の廃止等、寂しくも施設がどんどん少なくなっている印象です。公共施設を減らす方向のため、難しいかとも思いますが、市民に還元される娯楽部分で、人が集える、満足度のような部分にも目を向けていただけると嬉しく思います。

先週、向島公園に行きましたが、人がとても集まっていました。遊具も少なくはなっていますが、人が集まるということは、何か魅力があると思うため、人が集まる場所に何かヒントのようなものを見つけながら探してもらえればと思います。

(委員)

今回、キーワードにゼロカーボンというのが挙げられています。市役所にも市民も使える公用車で電気自動車が入り込んでいます。私は最近車屋に行く用事があり、お伺いしたところ、電気自動車であっても、補助金もあるため、軽自動車であればそこそこの値段で買ってしまうとのこと。ただ、充電設備の設置について、戸建てであれば付ける場合もあるかと思いますが、マンションや借家の場合は、購入を躊躇する方もいらっしゃると思います。私も将来的には考えてもいいかと思いますが、設置費用が将来的な電気代のところで見合うのかというところがあります。また、インフラ面がまだ弱いと思うので、そのあたりの補助金や、充電設備の充実について見直していただきたいと思います。高砂市には製造業も多いため、ゼロカーボンが難しいかと思いますが、企業へのアフターフォローについても市でも考えていただければと思います。

(委員)

医師会の代表としまして、地域医療に関してお話させていただきたいと思います。冒頭に市

民病院のお話がありました。高砂市の中で、ベッドを持っていて入院できる施設について、病院は市民病院と西部病院、あとは二つの有床診療所のみです。その他は一般的なクリニックや外来が中心の施設です。市長を中心に、市民病院のあり方を考える検討会もあり、そこでどのような回答が出るか期待しているところですが、医療関係者もこれからは働き方改革を考える必要があります。今まで夜間の急病センターは大学病院からの派遣等で来ていただいた先生もいらっしやり、ようやく回っていたところでしたが、働き方改革で労働時間に縛りがつくとなかなか来ていただけません。では、これから大きな病院はどうするのか、救急医療ができないのではないかと問題が出てきています。現時点で、どのように働き方改革をしつつ、地域医療体制が落ち込まないようにするか、厚労省がどのように動くか、それらも踏まえて今後の市民病院をどのようにするか、十分議論をした上で決めていただければと思います。

地域医療に関してもう1点、高砂市も高齢化が進み、各診療所も跡継ぎをどうするかの問題が出てきており、今後、医師会を含めて地域医療をどのように守っていくかを考えていかないといけない時期になっています。

また、健診について、様々な案内も来ているかと思いますが、高砂市は兵庫県の中でも、かなり受診率、健診率が低いです。コロナ禍もあり、どこの市町村でも健診事業が落ち込んでいましたが、昨年の夏ごろから増えてきている傾向にあります。しかし、高砂市はまだなかなか健診率が上がってこないという状況で、市職員の方と医師会も含めて検討していかなければならないことを覚えておいていただければと思います。

(委員)

私は、阿弥陀町で畑を借り、ありがたい種農育学園というのを実施しています。「愛着と誇りを感じるまち」についてお話ししたいと思います。私は畑をお借りすることになってから、地域に宝があるなと気づきました。地域資源の話が何度か出てきましたが、地域に宝があることを今まで気づかずにいたということが、自分の中でとても大きく、この宝をどうにか活かさないかと様々な活動をしています。

商工会議所からの支援を受けて、新たに田んぼをお借りし、高砂市の農地を活かしていきたいという志を同じくする仲間と一緒に、今年から新たに活動させていただくことになっています。そのように地域の宝を活かしていきたいと思っています。

また、今までイベントを主催していたこともあり、阿弥陀の鹿嶋神社の参道で地域を活性化させたいというご相談をいただいたため、年に6回、鹿嶋神社の福結び市を開催することになりました。これらの活動を通じ、地域の子どもたちが、元気に活動する大人の姿を見て、地域に愛着を持ち、その地域で活動したり、地域に定住したりして、皆で楽しく幸せなまちにしていけるのではないかと、私は信じて活動しています。

(委員)

今回初めてこの総合政策審議会の委員を2年間させていただき、私自身も高砂が好きで色々情報を集めているつもりでしたが、ここに参加しなければ知らなかったこともあり、それを地域に持ち帰れたことが良かったと思います。しかし、地域に情報が届いていないということも事実であると思うため、情報発信の仕方や、発信した情報が繋がっていくコミュニティ



づくり、地域共生社会をつくっていくにあたってのバックアップが、行政だけでなく、市全体で起こっていけばいいなと思います。

(委員)

1点目は、子育てをしている親としての立場から、もう1点は、普段ケアマネージャーとして、また、市のケアマネージャー協会の理事として動いている立場からの2点についてお話させていただきます。

高砂市の子育て施策については、他市に比べて見劣りする部分も当然ありますが、他市並みに充実しているところもあるかと思えます。ただ、それがうまく外に情報として出ていません。先ほど明石市のお話がありましたが、明石市は、良くも悪くも目立っています。それが、悪く目立ったとしても、明石という名前は絶対に耳に残っていきます。ただ、高砂市は外に出ると、そもそも高砂市はどこにあるかというような話になります。市域も狭いですし、私も仕事柄、他市へ行く機会がありますが、県内の人でも高砂市がわからないという人もいらっしゃいます。そこで、高砂市自体の知名度を上げるために、シティプロモーションをしていくことが重要だと思えます。その中で、高砂市では子育てについてこのようなことをしています、高齢者についてこのようなことをしていると、取組について広報していくことが最優先事項だと思っています。

もう一つ、普段から高齢者支援員として仕事をしている部分では、先ほどお話もありました地域医療、在宅医療について、近くにお子さんがいらっしゃる等なければ、高齢者の方が外に出ていくことが難しい場合があり、通院も難しくなってくるケースも考えられます。訪問看護も使いつつ、インターネットを利用した診療が一つありますが、デジタルでの診療では対応しきれない方も多くいらっしゃいます。そのため、やはり訪問診療をしていく必要があると思えます。現在、高砂市内で訪問診療をしていただける先生は、1カ所だけだと考えていただいてもいいかと思えます。他に訪問診療を行っているところもありますが、新規でお願いできるところがその1カ所のみで、その先生が倒れると高砂市の訪問診療が倒れ、その先生にかかっている人は倒れてしまいます。負の連鎖が起こっていく可能性も十分考えられるため、訪問診療を充実していくことが重要ですが、お話があったとおり、先生方も高齢化しているとのことです。そこで考えたのが市民病院です。市民病院に訪問診療部門を立ち上げていただき、それを充実させることで、市民が助かる面もあり、市民病院の業績を上げる一つの方法であるとは考えます。ただ、医師を集めることが難しいかもしれませんが、そのような志を持つ若い医師も必ずいらっしゃると思えます。大学病院等と連携し、訪問診療部門を立ち上げていただければ、住民の方も助かりますし、私たち支援者も助かるため、ご検討いただきたいと思います。

(委員)

本校のPRのようになってしまいますが、明石工業高等専門学校では、1年間かけて、学生と「高砂のきほん」という冊子をまとめました。学生は4学科(電気、機械、建築、土木)の2～4年生を10人ほど集めて活動しました。全て学生の視点から、取材場所やPRする場所を決めました。結論としては、高砂市はお祭りが面白いということが学生たちの意見でした。神社を中心に、それぞれのお祭りをまとめています。また、高砂ちゃいくりんぐマップを参考に、自転車で

回った学生は、最後はへとへとになり、スポーツバイクか電動自転車で回るべきとのコメントをしています。このようなかたちで、高砂市に縁のない出身地の学生がまとめたのですが、高砂市は意外に面白いまちだったというのが学生たちの感想でした。文章も基本情報ではなく、学生たちが実際に見た感想等、結構面白いことが書いてあるため、よろしければぜひご覧ください。学校の中でもベスト8に入り、賞を取りました。

(委員)

高砂市の漁業連合会の代表で参りました。私は高砂市がとても住みやすいまちだと思っています。ある程度不自由のない生活を送れているため、そのように思うのかもしれませんが。しかし、一つだけ市長が言われているようにゼロカーボンについて、これほど浜手に企業が並んでいる中で、ゼロカーボンは不可能ではないのかなと思いました。それに対し、自分に何ができるかを考えると、海の中に藻場を造成し、二酸化炭素を吸収させて酸素を排出させる、海の中の森づくりを自分の中で進めていければいいのかなと思っています。

(委員)

高砂商工会議所から参加しています。我々商工会議所として、企業目線からゼロカーボンについてお話しします。私は、高砂市が歴史あるいいまちだと思っており、そこにこれだけの世界一流企業、超大手企業もある工業都市としての一面もあり、このような都市は非常に少ないかと思います。その中で、電気自動車に関して、電気自動車の普及が先か、充電ステーションの整備が先かということは非常に難しいところですが、充電する場所が歴史あるまちの中も含めて様々な場所に豊富に設置できれば、電気自動車の普及に伴い、観光しながら充電する等様々な未来が描けるかと思います。そのような部分で、企業としても高砂市と一緒に取り組んでいければありがたいと思います。

その中で、見守りカメラに関して、たまたま当社が小学校近くにあり、防犯カメラを設置しております。また、当社の保育所にも防犯カメラがありますが、先日、警察の方が小学生の登下校時に気になるところがあったようで、カメラの映像を見せてほしいと来られました。そのようなところで、企業ができることで市と一緒に取組ができればいいなと思います。

また、高砂市は荒井駅、高砂駅の朝と夜の駅の乗降者が非常に多く、それだけの人が企業に通勤しています。ただ、会社から駅に行き帰るだけになってしまっているところもあるため、駅前のまちづくりとして、寄り道ができる場所があればいいなと思います。そのような部分も色々一緒に考えていければいいなと思います。

(委員)

私は、この総合政策審議会の前の会、地方創生が始まった頃から委員として参画させていただいています。特にこの2年間は、市の政策部長とも一緒に色々できたのかなと自問するところがありますが、私たち金融機関、民間企業の側から見ますと、やはり行政運営は非常に難しいのだろうなと思います。私たちが取引先の経営改善をする場合は、何かにピンポイントに絞る必要があります、こうでなければ改善できませんというようなアドバイスをします。しかし、行政はあれもこれもしなければなりません。その中で起こっているのが少子高齢化です。これは私たち金融機関としても非常に危惧しており、将来お金を使う方、消費する方が激減しま

す。その場合、経済規模が維持できるのかという不安があるため、このような会議はどのように進めるべきなのでしょう。やはり10年先、20年先、長期目線で見てもおかなければ、この問題は改善していかないとします。

先日、新聞にて加古川市長と明石市長が意見を交えた記事がありましたが、そこで思ったことが、岡田市長は数字による分析をされており、私たち金融機関と同じ目線で見られています。それに対する泉市長の回答が質問に対する答えになっておらず、大丈夫かとの感想を持ちました。

その中でも、行政の方々は大変だとは思いますが、しっかり頑張ってくださいと思います。また、私も企業の職員というよりも一個人としてゼロカーボンやデジタル化の推進が必要だと思っています。特に、少子化に対抗できるのはやはりデジタル化であり、今まで3人でやっていたことを1人でやる等をしなければ回っていきません。地域活性化の点では、企業が利益を上げて次に投資することが一番の活性化につながるため、特に高砂市の場合は、大手企業が多くあるため、そこを起爆剤にし、その下請け、孫請け企業が儲かるような仕組みが地域の好循環に繋がってくるのではないかと思います。

(委員)

労働団体連合から参加させていただいています。私も高砂市がこれから先、どんどん元気で生き生きとなっていくにはどうすればいいかと色々考えます。私自身仕事をしながらこのような活動をさせていただいていると、やはり高砂市の方で、皆様働き、一定の収入を得ながら、かっちり生活ができていくことが大切だと感じます。将来に不安がある場合は、おそらく日々の生活をどうしようか、子育てをどうしようか等々あるかと思います。その中でも、企業やグループパートナーの皆様にも助けてもらいながら仕事をしてくことになります。仕事については、非正規雇用が多い中でも、少しずつでも正規の雇用で雇っていただきながら、生活できればいいのではないかと思います。

また、生産人口がどんどん減っていくことは仕方がない、逃れられないと思っています。そこで、少子高齢化が進んだ際に高砂市がどのようにすればいいのかというと、女性や高齢者、障がい者の方々も含め、皆様一緒になってそれぞれで仕事をさせていただきながら、活気ある毎日が過ごせれば良いと思います。その中で足りない部分をデジタル等、様々な分野で補ってもらえれば良いのではないかと思います。それらが高砂市の定住に繋がっていくものと考えます。

また、万が一離職された方も、新しくまた就労できる、働ける場についても政策としてもっと積極的に市も関わっていただければ非常にありがたいと思います。

(委員)

ゼロカーボンについて発言をさせていただきます。ゼロカーボンは高砂市だけの問題ではなく、地球規模の問題であり、これを第2の産業革命としてやらなければ、地球自体の存続にも関わると言われています。この問題について、高砂市がどのように取り組んでいくか、具体的に言うと、浜手の大企業、またそれに繋がる企業とどのように向き合っていくのかが問われています。前回部会でも申し上げましたが、西日本で兵庫県は二酸化炭素の排出量が1、2を争うと言われています。これは、播磨臨海工業地帯、阪神工業地帯を要しており、製造業が

多いためです。企業は言うまでもなく地域に雇用をもたらせてくれますし、税収ももたらせてくれます。そのため、共存共栄するべきであります。一方でゼロカーボンを実現するためには、言いにくいところもあるかと思いますが、言うべきところで言う必要が出てくると思います。もちろんゼロカーボンは国も積極的に誘導していくでしょうし、企業も、欧米が非常に進めているため、歩調を合わさなければグローバルスタンダードに合致せず、日本の製造業自体が生き残れなくなる恐れもあります。そのため、企業も一生懸命取り組むと思いますが、高砂市としても、しっかりと企業がどうされているか見ていく構えが必要だと思えます。

性質が異なるため、リスクになるかもしれませんが、企業と地元の関係でいうと、昔公害問題がありました。企業活動により住民が被害を受ける中、公害の防止協定を作るなど、この高砂でもあったかと思えます。もちろん公害とゼロカーボンでは性質が違うため、同じようには論じることができませんが、ゼロカーボンを推進するにあたっては、どうしても企業は利益追求との間で矛盾が生じたり、二の足を踏むことがあるかもしれません。企業の方からもゼロカーボンは厳しいのではないかとの発言もありましたが、それらも含めて、国がやるからではなく、高砂市としても当然進めていくという強い姿勢が要るため、流行り言葉やムードとしてのゼロカーボンではなく、シビアな局面も出てくるのではないかと思います。その際には市として頑張っていたいただきたいと思えます。

#### (委員)

県民局から参加しています。人口減少の中で、非常に様々な課題に対応されており、KPI、数字を見ても良くなっているところもあり、本当にご努力に敬意を表したいと思います。

その中で、1点気になったのが、市民満足度調査で高砂市に愛着・親しみを持っているとの回答が令和元年度の73.5%から令和3年度の58.08%に下がっており、これが少し残念な結果ではないかと思えます。色々考えていましたが、かつて高砂市がブライダル都市と言われており、鹿嶋神社や高砂神社が高砂市にあり、そのような場での結婚式を謳っていたと思えます。

今はゼロカーボンを強く推しておられますが、その中で、今年の秋に市ノ池でため池を使ったウエディングを兵庫大学の学生に協力いただいて実施しました。大変好評を得まして、ため池を使いながら自然を共有し、ご家族、ご親族が集まり、若いご夫婦を祝うと、一石三鳥くらいのイベントでした。是非ともこのような取組を、高砂市も支援していただき、考えて進めていただきたいと思っています。

先ほどお話があった地域の宝はたくさんあると思えます。祭りや神社のような歴史的なものも大切な宝ですし、産業や文化も宝であると思えます。これらをどんどん磨いてもらい、高砂市に住んでいる人が楽しく、誇りに思うような取組をしていただければと思えます。そうすれば、愛着も上がり、人口も上がってくるのではないかと思います。

ゼロカーボンについて、県でも播磨臨海地域カーボンニュートラルポート推進協議会を設置し、全体で取り組んでいます。市役所の方にも入っていただき、議論していきたいと思えます。豊田地域に次ぐ、この播磨臨海の工業地帯も日本の心臓部ですので、これをなくすわけにもいきません。播磨臨海道路も間もなくできることになっているため、企業と一体となり、取り組んでいく課題だと思っています。

(委員)

ハローワーク加古川より参加しています。活躍労働政策について、20歳から39歳の転出超過が徐々に減ってきてはいますが、さらに対策を進めていく必要がある状況だと思えます。それには、地元企業への雇用促進が重要な課題だと思っています。

まずは、どのような企業が地元にあるのかを若者に知ってもらう取組が必要だと思えます。これは私たち職業安定行政の課題であると思えます。高砂市は一般的に名前が知られていなくとも、特色のある中小企業もあり、そのような企業を知ってもらう、興味を持ってもらうことが重要です。例えば、専門分野で卓越した技術を持っている会社や育児など家庭との両立支援に力を入れている会社など、それぞれの企業の強みを積極的にアピールしていただくことが、人材の確保にもつながると思えます。若者に対しては、企業のガイドブックや冊子で紹介する例よりも、スマートフォンで手軽に見ていただく方が情報として見ていただきやすいです。そのため、市からもSNS等を利用し、市内企業の魅力を画像も踏まえて視覚的に訴えるような発信をしていただくような取組もしていただければと思います。

また、多様な人材が働きやすい労働環境の整備も重要な課題だと思えます。例えば、女性の活躍推進や就労促進についても、市では企業に対する周知啓発やセミナーもされています。これらがもっと市民によく伝わるように発信していただくことも必要かと思えます。ハローワークとしても市の取組にできるだけ協力していきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

(副会長)

皆様におかれましては、2年間にわたり、本当に多様な場面での審議をいただき、ありがとうございました。私も副会長ということで、皆様からのご意見を賜る立場でした。このような場で何度も申し上げているように、この審議会では非常に多様なことをしなければなりません。計画の部分や計画がどのように実行されているかというチェックの部分、そしてそれをどう改善していくのかというアクションの部分、いわゆるPDCAの要であり、それをご理解いただいたうえで、建設的なご意見を賜ったと思っています。印象的な部分では、かなり身近な問題が出てきたところが非常に良かったと思えます。行政は計画の中で全体を見ながら検討する必要があるところ、市民の皆様は市民目線でそれぞれの立場から何を必要としているのかを包み隠さず正直な意見が出てきたところが、私自身も大変勉強になったところです。皆様の本日のご意見は議事録でも確認させていただき、自分の反省にも繋げたいと思っています。ありがとうございました。

(会長)

皆様のご意見を総括して、事務局の方にも対応をお願いしなければならないかとも思いますが、重要な点としては、すぐ実行できることもあるという点です。例えば、審議会のメンバーに障がい者団体の枠を加えるかについては、お金もかからないため、市役所の中で相談していただいて、市長とも相談したうえで決めることができます。また、防災に関連した兵庫県弁護士会との間の協定についても、あまりお金がかからず、協定を結んでおいた方が良いでしょう。ことなど、今回、皆様から出た意見の中で、お金をかけずに、すぐに実行できることで、一定の成果が出ることについては、事務局、市長から全体に働きかけをしていく必要があると

思いました。

そして、中期的に時間がかかるものの、できそうなこと、検討しなければならないこともありました。例えば、老人会の集まりに、老人が老人を車に乗せて移動するということが継続してある問題ということです。また、子どもの育成について、遊び場が減っているなど、どのような方向性であれば改善できるのか、あるいは現存のものにプラスアルファできるのかを考える必要があります。

学校のウェブサイトの閲覧制限について、大学では学生が容量の大きい動画等をどんどんダウンロードし、インターネットが止まってしまうことが頻発したため、規制を厳しくしました。現在、高砂市ではそのような、何か問題があったため規制を厳しくするという対応ではないと思うため、検討いただければと思います。

少し話し合えば解決できそうな問題や少し時間を置けば解決できる問題、市役所の外側に出ないと解決できない問題など、様々な問題があると思いますが、ゼロカーボンについては、やはり時間がかかる問題だと思います。その問題については、取組も始まっているため、誰がどのように取り組んでいるかなどは調べることはできるかと思います。そのように手探りで始められる部分から少しずつ始めていくと良いのかなと思います。

また、ある種のビジネスチャンスかなと思ったのが、地域のクリニックの先生が年を取っていることについて、同窓会でも、個人経営の税理士や会計士が、息子さんが継がなければ承継ができないという問題が話題になり、これが同様の問題だと思います。そこで、若手が出てくる人を後継に据えて、うまく事業承継できないかという試みもあったと思います。兵庫医大や神戸大学の医学部等の方と相談し、後継者がいない立派なクリニックの後継者として育てていく等ができるかもしれません。また、市民病院の活用の部分で、訪問というところが、今まで見ることができていなかったかもしれません。それらについては、市役所の外に出て、誰かと相談し、時間をかけて解決していくものだと思います。

今回の色々出た意見を、何段階かに分けて、できることから進めていくことが良いかと思います。

委員の方も、このような場での自分の意見が少しでも市制に反映され、変えていくという事例を作っていくことが、今後も市民参加に繋がってくる良いきっかけになるかと思うので、小さなことでも、少しずつ実現していけるようにしていただければと思います。

私からの総括は以上です。2年間非常にお世話になりました。

先日は、市長にお願いして、私たちの学生のゼミの発表をさせていただき、様々なアイデアを出しました。なかなか壁は厚いと思いましたが、何かアイデアを出して実現していくことに対して、市役所の方が非常に前向きに捉えていただけます。そのような意味では、非常に皆様は良い市役所の職員をお持ちだと思いますので、うまく活用して今後もやっていただければと思います。

本当にありがとうございました。

## 協議事項 2 その他

(会長)

次の議題として、その他について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

○資料に基づき説明(高砂市総合計画県総合戦略を改定することについて)

- ・国の第二期まちひとしごと創生総合戦略が新たにデジタル田園都市国家構想総合戦略として、大幅に改定。
- ・今回の国の改定については、地方創生の方向性というよりも、手段として、デジタルの力を活用するという国の考え方を示しているものと捉えている。
- ・新しい生活様式を踏まえた業務改革方針として、業務のデジタル化を実施方針として位置付け、すでにデジタル化を業務改革として、市では示していると考えます。
- ・令和4年6月に策定した、高砂市DX推進ビジョンでも、デジタル技術の活用を示していることから、国のデジタルを活用していくという新しい戦略に対して、すでに方針は補完できており、市の総合戦略において、改定が必要でないと考えている。
- ・令和7年度、総合計画の後期基本計画の策定の際に、デジタル活用については改めて検討したいと考えている。

(会長)

事務局からの説明は以上です。

これまでの方向性からは変わらないため、今日出ました婚姻届のホームページ掲載等も一つのDXになると思いますので、庁内検討のうえ、ぜひ実現に向けて動いていただきたいと思います。

皆様からご意見等ございますか。

ないようなので、本日用意していた議題は以上となり、これで議論を終了させていただきたいと思います。

事務局の方をお願いします。

(事務局)

皆様お忙しいところ、長い時間ありがとうございました。

本日は、総合政策審議会というタイトルのとおり、幅広いご視点からの問題提起や課題のご指摘、それらに対するご提案等、本当にありがとうございました。

会長からもご指摘いただいたとおり、すぐにできそうなこと、もう少し交渉すればできそうなこと、じっくり腰を据えて皆様と考えなければならないこと、様々あると思っています。いただいたご意見については、整理し、何らかのかたちで皆様にお答えできるような方向でまとめたいと思います。

本日は貴重なご意見本当にありがとうございました。

改めまして、会長の進行ありがとうございました。

公募委員の皆様におかれましては、2年間にわたり貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。令和5年度については、4月に公募を改めて行い、5月下旬に第1回の審議会を開催したいと考えています。年度が変更しましたら改めて日程調整等の依頼をさせていただきます。

ますので、その際はご協力をお願いします。  
本日はありがとうございました。